避難中の中学・高校生ら友情育む

▶土佐清水市の足摺岬にて

高知で15人ホームステイ

県内の中学・高校生を対象にした短期ホームステイ「福島キッズ『保養』in高知」が一月九日(月)から十五日(日)の七日間、高知県土佐清水市で実施された。避難生活を送る生徒たちに「土佐の人情や文化に触れ、友達を作ってほしい」との趣旨で、同市の心のきずなプロジェクト実行委員会の主催、高知県、土佐清水市、土佐清水市立清水中学校、高知県立清水高等学校、土佐清水市観光協会、ふくしま子育て支援ネットワークなどの協力で行われた。

大熊町や浪江町など、故郷を離れ県内外で避難生活を送る中学・高校生ら十五名が参加した。一行は、土佐清水市の中学・高校の外国人講師宅など、同年代の生徒が家族にいる家庭にホームステイしながら、清水中学校、清水高等学校に通い授業を受けたり、クラブ活動に参加したり交流を深めた。校外学習として四万十川やジョン万次郎の生家を訪ねたり、グラスボートに乗船してサンゴや熱帯魚を観察する文化体験、イカや魚の干物づくり体験など楽しいイベントも用意され、生徒たちは、高知の人々の温かい人情に触れ、新しい友達を作り、思い出に残る一週間を過ごした。

会津若松市に避難している大熊町の大熊中学校一年生の遠藤由香さんは「土佐清水は、今住んでいる会津より暖かいし、雰囲気が大熊と似ていて落ち着きます。ホストファミリーはとても面白くて楽しいです。お父さんはギターが上手で、お母さんはギターが面白いです。中学3年生の結ちゃんとは話が会って楽しいし、一年生の萌ちゃんとは犬の散歩にいったりいっしょに料理して過ごしています。昼間のアクティビティのプログラムも面白かったけど、ホストファミリーといっしょにいる時間はもっと楽しいです」と笑顔で話した。

▼復興への願いを込めたキャンドルナイト

郡山に希望の灯1万個

復興の願いを込めた「がんばろう福島！〝絆〟づくりキャンドルナイトクリスマススペシャル」が昨年十二月二十三日(金)、郡山市の開成山公園で開かれ、祈りと希望のキャンドル約一万個が夜の公園に灯された。富岡町、川内村、双葉町、葛尾村、県中地域全十二市町村、県でつくる実行委員会の主催。

郡山市の仮設住宅などで暮らす避難住民や来場者のメッセージが入ったキャンドルを「がんばろう福島　絆」の文字に並べたモニュメントなどが用意され、来場者らが一つ一つに灯をともした。郡山女子大短期大学部の学生によるハンドベル演奏なども行われた。

絆づくり支援センター ご案内

仮設住宅でのより良い暮らしを私たちがサポートします！困りごとがございましたら、お電話・お便りください。皆さんの声をお待ちしています！

＜各地域の絆づくり支援センター＞

●県北地域　絆づくり支援センター
☎ 024-573-8425
〒960-8141 福島市渡利字鳥谷下町 67-1

●県中地域　絆づくり支援センター
☎ 024-944-0083
〒963-8835 郡山市小原田 2-19-19

●県南地域　絆づくり支援センター
☎ 0248-23-8909
〒961-0905 白河市本町 2

●会津・南会津地域　絆づくり支援センター
☎ 0242-24-8862
〒965-0009 会津若松市八角町 13-45

●相双地域　絆づくり支援センター
☎ 0244-24-0222
〒975-0034 南相馬市原町区上渋佐字原田 94-4

●いわき地域　絆づくり支援センター
☎ 0246-35-1425
〒970-8026 いわき市平字愛谷町一丁目 4 番地 10 桂ビル 1 階

購読のご案内

絆新聞は、市町村の広報紙に同封して配布し、仮設住宅の集会所やふるさと絆情報ステーションなどでも配布しています。また、次の方法で郵送による購読を受付しています。送り先の住所・氏名、希望する号数を明記し、下記住所まで、90 円切手をお送りください。（原則として、お一人一部とさせていただきます。）

〒963－8835　福島県郡山市小原田 2 － 19 － 19
NPO 法人うつくしま NPO ネットワーク
絆新聞編集室購読係

「絆新聞(携帯版)」配信中

絆新聞編集室では各種情報を定期的にお知らせする「絆新聞(携帯版)」を配信しています。本紙が月刊紙という性格上、タイムリーにイベント情報などをお知らせするのが困難なため、携帯版にて少しでも早く読者に情報を提供しようという試みです。また、読者の皆様の情報発信ツールとしてもお使いいただけます。仮設住宅での催し物、尋ね人などどんな事でも結構です、お知らせください。ご利用いただくには、掲載されているQRコードからサイトへアクセスし、メールアドレスを登録していただくだけです。入会費などの費用は一切かかりません（携帯電話会社とご契約の通信費はかかります）。

登録されたメールアドレスは当方が厳重に管理し、配信以外の目的で使用することはありません。

「読者のコーナー」投稿募集！

絆新聞編集室では読者の皆様からの投稿を募集しています。氏名、年齢、住所、避難先の現住所、内容を100字程度にまとめた文章、写真(デジタルデータが望ましいですがL版程度のプリントでも可、できる限り笑顔の写真をお願いします)、問い合わせが必要な場合に連絡がとれる電話番号、以上をメールもしくは郵送でお寄せください。締切りと紙面の都合上、掲載となるかはお約束いたしかねます。また、内容によっては掲載できない場合もあります。予めご了承ください。

✉ kizuna-fp@utsukushima-npo.jp（1面にQRコードがあります）
〒963－8835
福島県郡山市小原田2－19－19
絆新聞編集室

編集後記

昨年十二月二十一日(水)の夜、二本松駅前の市民交流センターが光のページェントに包まれました＝写真。伝統を絶やすまいと駅前一帯で十一月に開催した十日市祭の際、お世話になった付近の住民や関係者に感謝の気持ちを表すため「まちづくりNPO新町なみえ」が企画、浪江町商工会復興十日市祭運営委員会の主催で行われたイベントです。

この夜のためにメンバーたちは三日がかりでイルミネーションを準備、会場ではホットワインやポタージュスープ、焼きたてのフランスパンなどが無料で振舞われ、クリスマスコンサートも開かれ、訪れた人々の心も体も温めていました。

避難する側、受け入れる側…良い事もあれば、トラブルもあるかもしれません。この光のページェントのように互いを思いやる気持ちがあればなお一層絆の深い県民性、国民性につながっていくのではないだろうか…そう感じさせられた夜でした。（義）